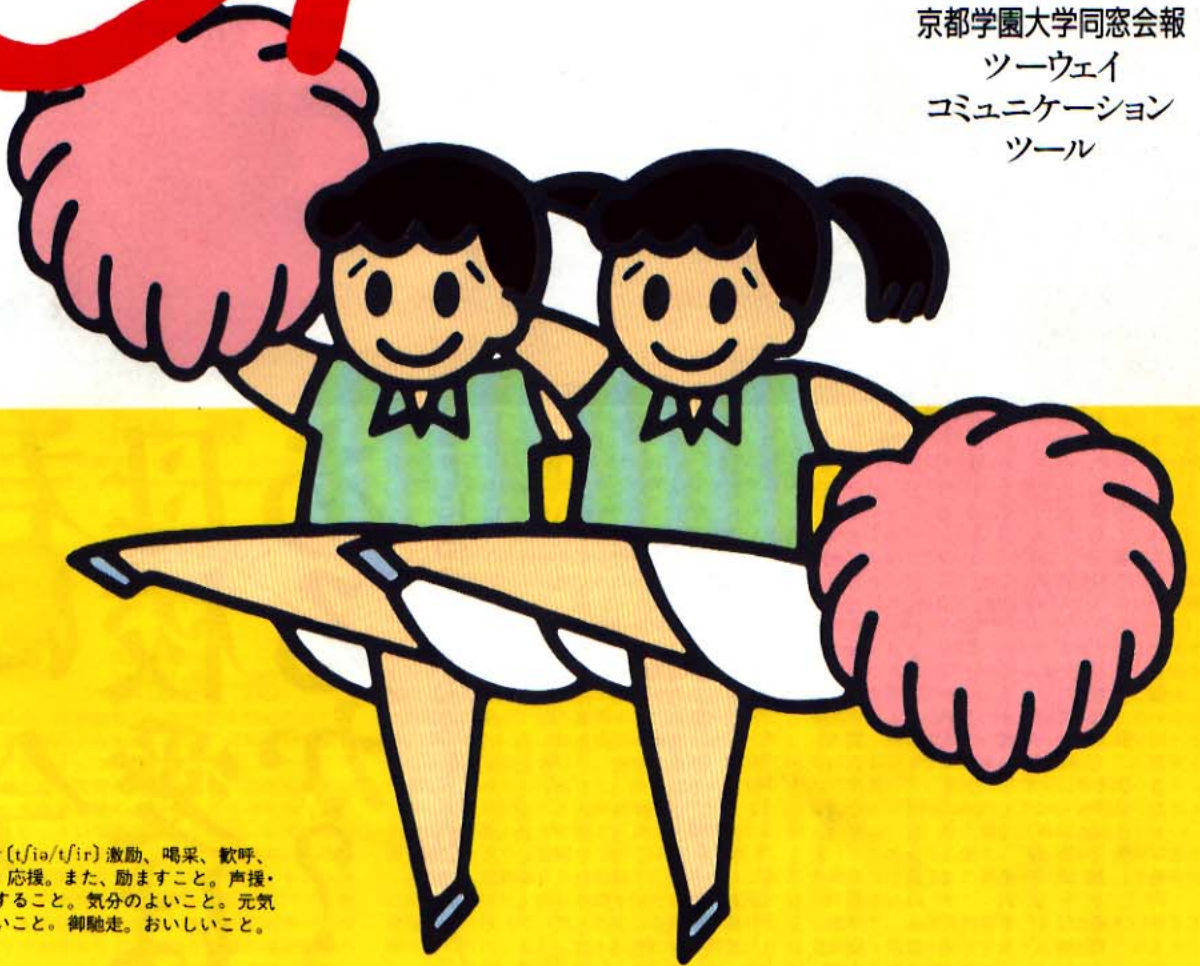


# Cheer

1

創刊号

京都学園大学同窓会報  
ツーウェイ  
コミュニケーション  
ツール



Cheer (tʃiə/tʃɪr) 激励、喝采、歡呼、  
声援、応援。また、励ますこと。声援・  
応援すること。気分のよいこと。元氣  
がよいこと。御馳走。おいしいこと。

INDEX

声援フォーラム——KGU広場

創刊直撃インタビュー

創刊特集アンケート

KGUSピリット

とは何か?

KGUゼミOB座談会

川畑周作

ゼミナール

フリートーク

フォト・ドキュメント

龍尾祭ドキュメント

フォト・アングルメッセージ

OBメッセージ

同窓生からの手紙

がんばっています

卒業生ドキュメント

WOW・WOW・BOX

何でもつまっている箱ページ

同窓会通信

KGUクラブ活動記録

編集後記



# 創刊直撃インタビュー

KGU同窓会報創刊について聞いてみました。



## 祝創刊

京都学園理事長  
辻本一郎

光陰矢の如し。開学以来16年、今日までに4940名の卒業生が誕生した。昨秋、同窓会設立10周年を記念して、京都ホテルで催された記念祝賀会にお招きを受け、感激一入であった。流石、フレッシュな企画に生気が溢れ、新時代の到来を思わせる会の運営ご振りであり、スタッフの情熱が伝わって参りました。殊に当日配布された同窓会名簿(B5200全頁)は、会の生命であるだけに、この編集をされた方達の熱意がズッシリと、その内容の重みと共に感じられ、益々本格的に始動したと感激を覚えました。さて、会報創刊の機に学園の抱えている悩みとその対応についての考え方を率直に申し上げ、

皆様方のご批判とご協力をお願ひ致したいと存じます。現代を評して私学時代といわれています。その論拠は、経済の急成長と高度な情報社会の到来と相俟って大学進学志望熱が高まり、文部省の統計調査によると、昭和50年以来大学進学率は満18歳人口の35%を上回り、しかも大学在籍者の私立対国・公立の比は78対22(昭和58年実績)と、ここ数年大学教育の約8割は私学が担ってきている実情にあるからです。しかも18歳人口の推移は所謂第2のベビーブーム期の影響で、昭和61年度より昭和67年度迄上昇を続け、その後急激に下向線を迎えることが明白であり、国もその方向で今年の6月に高等教育整備の基本計画を発表しています。かえりみて、本学は未だ若い大学であり社会的評価も高くない。このまま二流、三流に定着させられるのではないかと不安が学園内外に起き始めています。今にして一流への浮上の対策をたてなければ将来の発展を望むことができない。われわれ学園関係者が心を合わせ、目的意識を共通に、決断しな

ければならない秋來るであります。先ず大学内部者が私立学校法の立法精神を自覚すること、即ち私学の特性に鑑み、建学の精神に則って、独自の特色ある教育が発揮されなければならない。此の際、特に留意すべきことは、今日の大学は研究面よりも教育面が主であるということである。学生一人ひとりに勉強の意欲を起こさせ、大学入学の動機をハッキリ認識させ、勉強し、クラブ活動等にも真剣に取り組み、自信と実力をもって社会に立ち向かう気概を養成する大学でなければならぬ。極論すれば、大学の格付はそこで教育を受けた学生の出来不出来にあるといえましょう。従ってその評価は教師の学生への影響如何によって決まるのではないのでしょうか。今や一流企業でも多彩な人材を集めることに懸命で、指定校制度は急速にぐずれつつあるといわれます。前段お願いしました様に、先輩諸君のご意見・アドバイスをお寄せ下さい。そして足腰の強い大学になる様、よろしくご協力をお願い申し上げます。



## 同窓会報の発刊を祝う

学長  
田杉 競

人間がほかの動物より優れているのは言語や文章が相互にコミュニケーションができること

だといわれる。コミュニケーションには言語によるものと、シンボル、映像、放送などによるものがあるし、時には以心伝心という微妙なものもある。われわれは社会生活をしているから、何かの形でコミュニケーションをしなければならない。組織のなかでは命令、報告、協議は必要だし、その他の集団でもそれがなくては秩序ができない。同じ大学を同期に出たもの間には友情があ

る。同じゼミ、同じスポーツクラブのもの間にも、先輩、後輩のあいだにも友情がある。ゼミを同じくしたものと先生の間にも親愛の情があって、コミュニケーションをしようとするのは自然である。今回京都学園大学同窓会報が生まれることになった。会社でのコミュニケーションから、ひいては同窓会に出席して、友情の輪をひろげ深めるのに大いに役立つと信ずる。



## 全会員の会報に

同窓会顧問  
米田貞一郎

昨秋の、同窓会設立10周年記念総会のほとぼりがまだ冷めやらぬ思いの今、同窓会報が創刊されるという。ご同慶の至ります。もっとも、同窓会報の発刊は、同窓会発足当初から最重要事業の一つとしてあげられていたもので、むしろいつ実現されるのか、もどかしい思いさえして、待望していたものです。10周年記念行事を契機として、役員諸君は、それ以後隔月に必ず会合し、去る夏のことには、「プレ創刊号」を発行して全会員に本番の創刊号への投稿を呼びかけるなど、周到な精進を積み重ねられました。いよいよ、機熟し、会報「チア」第1号ができあがり、

全会員相互の親睦が深められ、併せて母校の発展に寄与するための一つの方法が築かれるに至ったことは、誠に嬉しくなりません。さて、これからは、これを継続することが課題です。定期的な発行も発行しつづけねばなりません。そのためには、役員諸君に益々の尽力を願うこととなりますが、それ以上に、全会員諸君の関心と協力を得ることが最も肝要です。一にも二にも、会員諸君が原稿を送って下さらねば成り立ちません。各自の感想、意見、動静などはもちろんのこと、会員同志の動静や会合の模様など、たとえ些細なことでも、またスナップ写真1枚でも、どんどん役員のもとに送り届けるような習慣をつけてほしいものです。週日も、写真部OB会の集まりがあり、これに招かれました。折しも錦を着た高雄・楨尾・桐尾を北に抜けて、京北町周山の料理旅館村山楼へ。これがなんと、OBのひとりの嫁ぎ先だということです。人数こそ10人と少ないが、第1期から6期にわたり、遠く東は東京、西は浜田・因島から駆けつけたと

いうわけで、宴席は盛り上がりました。宿の思い出写真展の苦心談をはじめ、社会に出てからの活躍ぶりや家庭の団楽の話まで、学生時代にかえってのはしゃぎよう。せっかく用意して下さったカラオケには見向きもしないで、午後6時から始末をつづけて夜半を大きく回り、やっと寝に就く始末。翌朝は、勤務があるという未明に出立した3名を見送った後、閑静な山峡の小春日を堪能して別れを告げたものです。幹事のひとりに、こんな集まりの情景こそ、是非同窓会報に書き送ってもらいたいのだと頼んだのですが、創刊号にはあまりに間近くて、その願いは果たされずまい。代ってこのように筆をとったのも、会員諸君の先鞭をつけようとの気持ちからです。不遜を許して下さい。重ねて、全会員の力で、よい会報がいつまでも続いて発刊されますよう念願して、およろこびのことばを結びます。



## 同窓会報の創刊に寄せて

同窓会会長  
浅野真実

約5000名を数える同窓生の皆様こんにちは。昨秋に同窓会設立10周年の記念式典を開催して、もう1年たちました。その10周年記念誌の中で、私は次のように皆様にごあいさつしたと思います。21世紀を担うのは私達青年であること、日本では「安全と防衛」「行財政改革」「対外摩擦」などの諸問題をかかえ早急な解決が必要であること、

そしてこの多事多難な時局に、私達京都学園大学同窓生は、建学の精神である「先見性と進取性」を発揮し、自らの人間性向上を高めることが大切であると……。熱烈な母校愛に燃える同窓生の皆様、母校も大きく成長してまいりました。それだけに母校を取り巻く環境も大きく変化しています。私達OBが今後一層組織の充実を図り、母校の発展に大いに寄与する一決意がなければいけないと考えます。そこで、次の3点を編集綱領として定期的な同窓会報の発行をおこなうことになりました。(一)会員相互の親睦を図るとともに、母校京都学園大学の発展に寄与する。(一)会員に対話の場を提供し、母校京都学園大学

の現状を報道する。(一)会員の相互連帯意識と母校京都学園大学の建学精神である「現代的日本人の育成」の実践を鼓舞する。それぞれがそれぞれの立場で活躍され、忙しい日々を過ごされている同窓会員の皆様、この同窓会報をみなさまの大切な心の糧のひとつとしてとらえていただき、忌憚のないご意見に希望をお聞かせください。同窓会会員全員のあたたかい心と情熱で私たち自身のコミュニケーション誌をつくってゆきましょう。みなさまの積極的な投稿をお願いする次第です。

# 君に、今 母校愛は あるか？

GFに出身大学の話を求められた時——。




たといえば、GFに、あなたの出身大学はどこ？と聞かれたらどう答えるか。京都学園大学と、きつぱりと、自身と愛校心をもって答えられるだろうか。母校というのは、どこの大学出身者であれ、なんとなく、やっかいな存在だ。学生時代、クラブ活動や学友会関係の仕事などで活躍した人は、それそれなりに思いも強く、母校のことを誇りとともに思い浮かべることができるとは、だが学生時代、孤立していたひと、あまり大学に顔を出さなかつたひと、留年したり、就職試験などで挫折感を覚わつたひと、ともいるに違いない。そんな同窓生にとっては、大学生活の思い出が青春のポジティブな色彩にいろどられていたりとは限らないだろう。青春とは、そのようなものである。楽しい青春もあれば、苦しい青春もある。明るい青春もあれば、暗い青春もある。もし、そのようなネガティブな体験をもつひとが、GFから、母校の話を求められたら、どのように答えるだろうか。ちょっと危惧と不安をおぼえる。しかし、誰かに母校のことを尋ねられたら、やっぱり自信をもって、京都学園大学と、愛校心とともに答えてほしい。同窓生なら、京都学園大学関係者なら、誰だってそう思うに違いない。そこで、同窓会報Cherierから、同窓会員のみなさんに、ひとつの提案——。もしGFから出身大学のことを聞かれたらどう答えるか。みなさん、それぞれの体験にもとづいた投稿を編集部までお寄せいただきたい。同窓会では、この投稿募集を機会として、それぞれに母校に対して固有の思い出と体験をもつひとみんなのコミュニケーションの輪を広げていきたいと考えている。それがこの同窓会Cherierを、たまたま表面的に大学生活をなつかしがるだけの同窓会報ではなく、私たちの京都学園大学での虚飾のない共通体験を基礎とするほんとうのコミュニケーションツール誌にそだてていく第一歩になると考えた。どうか、ふるって、ご投稿いただきたい。そのテーマは、もしGFに出身大学のことを聞かれたら……。

# KGU〔京都学園大学〕スピリットとは何か？

アンケート形式で先生・同窓生・在校生に聞いてみることによって浮かびあがってくる大学像

われらが母校・京都学園大学スピリットとは、何だろう？ まだ創立15年の若い大学だが、なにか目に見えないところで、KGU〔京都学園大学〕スピリットといったものが形成されつつあるように思える。それは、

何か？ 先生・同窓生・在校生に問いかけてみることによって浮かびあがってくる京都学園大学のサムシングエールについてみんなで考えてみるアンケートを企画してみた。

	アンケート1 京都学園大学のもっともよいところ、あなたの好きな点は、どんなところですか？	アンケート2 京都学園大学のもっとも悪いところ、あなたの嫌いな点は、どんなところですか？	アンケート3 京都学園大学を、たとえば色にたとえると、何色になりますか？	アンケート4 京都学園大学を、何かものにたとえると、どんなものになるでしょう？	アンケート5 あなたにとって、京都学園大学とは、何ですか？	アンケート6 京都学園大学スピリットとは、何でしょう？
 <p><b>KGUスピリット……</b> 宇宙的スケールで真実を求め 現実にも勤勉な精神が KGUスピリットだ</p> <p>京都学園大学教授 <b>堀 数馬</b> (同志社大学文学部英文学科卒)</p> <p>……教授からの視点</p>	<p>京都学園大学のもっともよいところ、——それは境界線をはるかなたに見える広大なキャンパス。山麓の丘を中心に展開する郊外の風景は比類のない美しさで、ここに学ぶ者のこころを豊かにしてくれる。</p>	<p>京都学園大学の悪いところ——それは交通不便点。国鉄複線化まで、この交通不便点が最大の欠点。また嫌いな点は、学生たちに自尊心とマナーの貧弱さを感じる場合。</p>	<p>それは、——青色。青は、若さのイメージ、晴天の色、海の色であり、宇宙の広大さ、真理の深遠さをあらわしている。これが大学旗の色(紺)と決定した理由で、やはり京都学園大学の色となると、ブルー(青)ということになる。</p>	<p>たとえて言えば、それは、——春の園。京都学園大学は、春のように温暖で、ほがらかである。大学には、毎年春になると、全国各地からあつまってきた多種多様な種子が蒔かれ、そのうち意欲あるものは、4年後にそれぞれ個性ある果実を実らせる。だが意欲なき者は成育しない場合もある。これはキャンパスの他の植物群もまた同じである。</p>	<p>私にとって京都学園大学とは、——若い男女学生の人間形成に協力し尽力する場であり、その使命を果たしていく機関となっている。大学には、当初要請を受けて着任したが、未だ過去の経験・体験を活かしえないままに、いままお若い学生たちとともに勉学につとめている場であるといえよう。</p>	<p>真実をもとめ現実にも勤勉であること、——これが京都学園大学スピリットである。それは学業にも凝縮的に表現されている。すなわち、バックの“星”は京都の“京”をかたどるとともに大宇宙を、円環は平和を、背後の十字架は精神と物質の結合を象徴している。京都学園大学は、単に世界的などというレベルのものではなく、宇宙的なスケールの理念のもとに、真実・平和をめざし、物心一体となって教育・研究に奉仕する大学であることを自覚し、このKGUSピリットのもとに躍進したい。</p>
 <p><b>KGUスピリット……</b> それは地域社会に生きる 若い大学の フロンティア精神だ</p> <p>亀岡市役所 <b>宇野 治</b> (経済学部経営学科・昭和49年卒)</p> <p>……同窓生からの視点</p>	<p>めぐまれた自然環境の中で、勉学にスポーツに勤むことができる点が、京都学園大学のすばらしさだと思います。キャンパスを取りかこむ山々は四季折々に変化し、秋の紅葉は見事です。初秋から冬にかけて見られる霧も裏山の龍尾山を美しく変化させます。この亀岡という地の自然の彩が最高です。</p>	<p>悪いところ、欠点となると、レジャー志向の学生が多いことでしょうか。これは、京都学園大学だけではなく、ほかの大学にもまた共通する傾向だと思えますが、よく遊びよく遊び、そして勉強をする学生が多いようです。</p>	<p>グリーン。大学としてまだ若く、未知数を秘めているように思えるところから、若葉のグリーンをイメージします。それはまた田園都市・亀岡にある大学であるということとも合致します。</p>	<p>レジャーランド。ほかの大学でもそうですが、今日の大学生はあまり深く考えないで行動するようです。よく遊びよく遊び、そしてそのあいまに勉強する学生たち。そんなことを考えていると、“レジャーランド”という言葉が浮かんできます。KGUは自然にめぐまれた美しいレジャーランドでしょうか。</p>	<p>大学時代、ある友人と、先生にお願いして、ORと外書講読の自主講座をもってもらったことがあります。たった2人のための自主講座を、先生方はこころよく引き受けてくださいました。意欲的に求めていけば、それに応えてくれる若い先生方がおられる大学であったと思います。そしてそんな先生方と友人に取り囲まれて、大学時代、じっくりと自分を見つめ直すことができたとと思います。私にとっての京都学園大学とは、そのように、青春の一時期、よき友人と先生方に出会い、そのなかで自分自身を見つめ、ものの考え方の基礎となる座標軸をつかむことができた時と場所であったと思います。</p>	<p>若い大学ゆえに、フロンティア精神のある大学で、それが京都学園大学スピリットだと思います。そのフロンティア精神は、明治時代のそれのような大時代的なものではなく、ちょっと小粒だけれど、現実に今、企業で、官公庁で、また高校・中学などで、そこに就職した卒業生たちによって開花しつつあるのではないのでしょうか。また大学自身、地域に生きる大学、地域社会に関わった大学として、自主講座や市民講座、講演会などを積極的にこなしています。そんなところにも現代社会に求められるフロンティア精神をもつ大学を感じます。</p>
 <p><b>KGUスピリット……</b> それはチャレンジするこころ 明日に向かって挑戦する あすなろだ</p> <p>京都学園大学経済学部経済学科3回生 <b>日野英治</b> (堂姫県立小松高校出身)</p> <p>……在校生からの視点</p>	<p>自由な大学。自由な雰囲気。自由でいられる場所。——それが京都学園大学の最大の魅力で、もっともよい点だと思います。自分の責任の範囲内で、どんなことでもできる。そこに自由を感じます。</p>	<p>自分で責任をもたないで自由を行使している学生が多いこと。また本来の自由を使いきれないで、くすぶっていたり身勝手にあまえていく学生が多いように思えること。それが嫌なところ、KGUの悪いところ。自由な大学だけに、その欠点も目立つのです。</p>	<p>水色。それというのも、イマイチこれといった迫力があるでなし、と言って、暗くじめじめしているわけでもなし、明るいわりには何となくゆううつな感じもあって、水色というイメージ。この色、決して聡明な色ではないのです。ごめんない。</p>	<p>何かものにたとえたとすると、ラジオ。聞いていると一見楽しそうではあるのだが、TVのように画像がないのでインパクトに欠ける。なんとなく迫力のなき、何かインパクトが欠如しているような感じは、この大学のイメージに近い。それでも、やっぱり、よいところはあります。それは、それぞれ自分の考え次第だと思のですが、どうでしょうか？</p>	<p>自分にとって、大学とは……？ それは、何でしょう？ 僕は、おそらく、今、そのことを追求しているのだと思う。大学生活で、いろいろなことを体験しながら、だから、まだそれが何であるか、ここで明確には言えない。それは、大学卒業後になって言えることだと思います。</p>	<p>チャレンジするこころ、あすなろ、とても言おうか。ま、とにかく、僕の知りうる範囲内では、学生たちは、明日こそはと、それぞれ自分の理想をめざしてがんばっています。もちろん、どこにも例外はありますが、この明日に向かって挑戦していくチャレンジ精神が京都学園大学スピリットだと思います。</p>

# 川畑周作 ゼミナール

久し振りに会ったゼミの仲間たち。それぞれに、卒業後の生き方は違っているけど、同じゼミで学んだ体験からくる連帯は変わらない。なつかしい思い出の数々に、この日ばかりは、時間のたつのも忘れて――。

★1984年10月7日(日)京都ガーデンホテルにて



★司会者あいさつより  
このたび、私たちの同窓会報「Cheer」を創刊することになりました。この同窓会報で、毎号、ゼミOB座談会を企画しています。ゼミの先生を囲んで同窓会員がいろいろ思い出を語り合うというもので、このOB座談会を機会に、ゼミ同窓生のコミュニケーションをより深めていただきたいと思います。今日はその第1回目として、川畑周作教授を囲むゼミOB座談会です。

## 川畑ゼミの思い出

――いつもソフトボールの話からゼミが始まった  
司会 今日、御出席いただいた川畑ゼミ出身の方々、まず最初に、それぞれのゼミの思い出をお聞かせください。どんなことが印象に残っていますか？

川島 いろいろ記憶に残っていますが…、ソフトボールでしょうか、と誰かが言って、ゼミが始まる雰囲気。もちろん時間内にはやりませんが、よくソフトボールをしました。なごやかな結束の固いゼミでした。

川本 一度だけ、時間内にソフトボールをやったことがありますよ。(笑い)

森下 僕は理数系が好きで、川畑ゼミを選んだのですが、最後に卒論にあたるレポートを書かなければならないということで、これはヤバイ、単位が取れないというのではないかと。(笑い)僕は家業の北山杉の生産システムをテーマにレポートを書いたのですが、提出後、どう言われるかとびくびくしながらお聞きすると、よくできていると、ほめてくださった。その時のことが一番強く印象に残っています。

小沢 とにかく、ゼミ全体のチームワー

クがよかった。それに私の場合、レポートに取り組んでいく過程で自分を変えることができた。そんな印象があります。

長沢 僕もレポート提出前後のことが強く印象に残っています。僕はアルバイト先のガソリンスタンドの経営計画をテーマにしました。自分では、むりやりこじつけて、それらしいレポートをまとめたという感じが残ったのですが、それを評価していただいた。そのことが今も励みとなっています。僕は、学友会や新聞部の活動で時間をとられていて、欠席がちだったんですが、その点も、やんわりと受け止めていただいて、やさしく指導していただきました。

## ゼミの基本方針

――自分で理解して自分でまとめること  
司会 いきなり卒研レポートの話が出ていますが、川畑ゼミの指導方針はどのようなのですか？

川畑 専門ゼミは、それぞれの先生方の専門分野の基本的なところからくる発想や考え方によって、それぞれに内容と形式、指導方針も異なってきます。私のゼミは、管理科学論、いわゆるオペレーションズリサーチの分野で、数学や統計学も用いての経営管理の科学的方法ということが基礎となっています。それで、同じ経営学でも、理数的な色彩の濃いゼミで、講義と演習を交互にやっていますが、1回でも欠席すると、わからなくなる。それだけに、出席率がいい。そのせいか、ゼミ全体に、いつも緊張感のようなものがある。ゼミで学んだことの最後のまとめとして、自由研究のレポート提出があるわけですが、これについては、提出後、口頭試問で、場合によっては書き直させる。自分で調べた内容をどれだけ理解して自分でまとめているか。それがポイントで、またゼミ指導の基本方針でもあるわけです。

司会 それで、ここに出席のみなさんのレポートの評価は、……どうだったのでしょうか？

川畑 そうですね。森下君の北山杉の生産方法についての管理科学的な考察、これは、よかった。北山杉の生産方法に疎かったこともあって、私の方が、いろいろ教えられました。それから長沢君のガソリンスタンドの経営分析。これも、自分のアルバイト体験をうまく生かして考察していた。また川本君は、アイスクリームの全国の売上高をテーマに、数多くのデータをあつめてコンピュータのプログラムを組み、その季節変動指数を出した。それぞれに、なかなかの出来ばえでした。

## ゼミで学んだこと

――今はストレートに生きていなくても

今後生きてくる  
司会 ところで、川畑ゼミで学んだことは、実社会で生きていますか。  
川本 私は父の製材所を引き継いでいるのですが、なかなか現場での実践はむずかしい。しかし、たとえば現場へのトラックの積み合わせにしても、下積み上積みについて、計画的に考えさせられることが多い。今後、いろいろと生きてくると思います。  
川島 現在の仕事にストレートに生きて

## 出席者



川畑周作  
京都学園大学経済学部教授



小沢 誠  
柳屋三商会大阪支店商品課(昭和54年卒)



川島晋一  
京都学園大学事務職員(昭和54年卒)



川本直哉  
南川本製材所取締役(昭和54年卒)



森下武洋  
森下武肆商店(昭和54年卒)



長沢義昭  
一志螺旋(株)営業部営業課(昭和58年卒)



司会 浅野真実  
京都学園大学同窓会長

いるとは言えませんが、仕事に対する物の見方考え方、分析的な思考という面で活きていると思います。

**小沢** 僕の場合は、まだ活かすにも活かさない状態なんです。過去何年間かのデータをあつめて、それをどう分析していくか。そろそろ、そんなことを考えていかなければならないところにさしかかっています。

**長沢** 僕は入社後、生産管理課に配属され、専攻がストレートに活かせると思った。ところが、今年、営業に配転。しかし、そこでもコンピュータシステムを全面的に変更することになって、販売管理から生産管理まで、システム全体を考えることになった。まだ入社2年目、会議の席のすみこで聞いている段階ですが、今後どんな部門に配属になっても、川畑ゼミで学んだことは生きてくるという実感も持っています。

**森下** 私の場合も、学んだことが仕事にストレートに活かしているとは言えない。しかし、それよりもゼミでつちかった友人関係。これが生きてくると思います。

## 川畑教授プロフィール

— 気さくて、趣味が幅広く、真面目が

**司会** ところで、川畑先生は、どんな先生だったんですか。その人物像は？

**川島** 気さくて、真面目な方。真面目が服を着て歩いておられるような方ですよ。(笑い)

**川本** 趣味の多い方で、テニスから音楽まで幅広い。京大時代グリークラブで活躍されて、私も京都少年合唱団にいたこともあって、ときどきコンサートなどでお目にかかります。

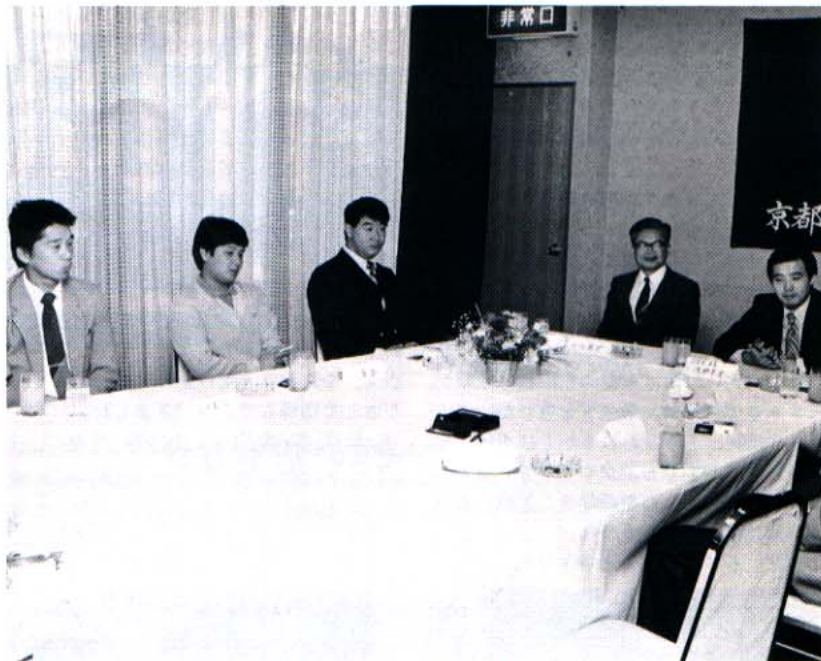
**森下** 容貌外見と違って、お若いこと。お子さんが小さいせいか、気が若い。ゼミのコンパなどでは、もっぱら日本酒。それも10時になると、きっちり席を立たれます。

**川島** あれば奥さんのことを考えられてのことですか。(笑い)

**川畑** いや、やはり年齢が年齢ですから、夜10時を過ぎての酒はいけません。

## 後記 川畑周作

教師は教える立場であるが、同時に学生諸君から教えられることも多い。例えば1つには若者の自由な発想や着眼の方法であり、また1つにはこちらが話したこと、行ったことへの反応を投げ返し、色々の材料を与えてくれることである。これは学力や成績の良し悪しとは関係がない。今回の座談会に出席した諸君のゼミもその通りであった。特にこの期のゼミは個性あふれるメンバーが多く、活発でしかもよくまとま



**長沢** 私は、就職の時、就職課以上に先生にはお世話になりました。いろんなことで、ご迷惑をおかけしたんですが、いつも、やんわりと指導していただいた。それが今もって、身にこたえています。

## 卒業後のコミュニケーション

— 今後もっともっと輪を広げて結婚でもお世話になろう

**司会** ゼミの学生の就職でも、いろいろお世話なさってこられたんですね。

**川畑** ええ、個人的な問題、家庭の事情、内面的な問題をかかえている学生は、就職の時も相談してきます。いろいろ話を聞いて、アドバイスを与え、推薦状を書いています。

**司会** 先生は、昨年出版された同窓会10周年記念誌に、『飢えと若さ』という題の原稿を書いてくださいました。それを読ませていただいて、いろいろ考えたのですが、仕事に対する意欲、情熱を持続させていく秘訣は何ですか？

**川畑** 現状に満足しないことでしょうね。

ており、意外な着想のレポートに考えさせられたり、ソフトボールに引っぱり出されたり、コンパでは何度も3次会までつき合ったり、随分印象が深い。久しぶりに会って話してみると、それぞれ学生時代よりも遥かに引きしまって充実しているのに感心した。いずれも積極性のある行動派の諸君であったので、物理的年齢のみでなく、社会人としての種々の実務経験が内面的成長の糧となっているのであろうと想像した。

生活が安定してくると、若い時代にもっていた情熱や欲望がうやむやになってしまうのですが、今のままでいいと思わないで、いつも何かを求めていくことです。

**司会** ところで、今日、数年ぶりに教えるの方に会われて、どうですか、その御感想は？

**川畑** そうですね。今日、こうして会って、おやっと思ったのは、みんな学生時代と比べて顔が引き締まっていることですね。社会人として鍛えられている、鍛えられたという印象を受けました。

**司会** ご出席の方で結婚されているのは、小沢君だけですか。今後は、結婚のときも、また先生にお世話にならないといけませんね。(笑い)このゼミOB座談会は、今後ずっと連載していくつもりですが、その目的のひとつは、卒業後もゼミの先生とつながりを深め、同窓生のコミュニケーションの輪を広げていくことにあります。みなさんも川畑先生という御輿をかついて、ワッショイ、ワッショイと、美しい連帯を深めていってください。今日は、どうもありがとうございました。

在学中のさまざまな想い出話だけでなく、ゼミで得たものが何らかの形で今も生きている、という感想を聞くことができたのは(多分にお世辞があるにしても)嬉しいことであった。本当はもっと率直な批判があっても然るべきであろうし、そのつもりでいたのであるが、これは言外の部分から察知しなければならぬ。ともあれ、懐かしいゼミメンバーと歓談する機会を与えていただいて感謝の極みである。

# フリートーク

## FREE TALK

Cherry 創刊に向けて、数多くの投稿が同窓会会員はもちろん、教職員の方々からも寄せられました。ここではおもに、教職員の方々から寄せられた熱いメッセージを紹介します。



京都学園大学  
前教授  
廣瀬 明

私は本学創立以来勤めさせて頂いていましたが、今年の3月末で、創立以来満15周年を迎えましたし、また女子短大も併設されました。益々充実発展の段階に入りました。が私自身は体力の衰えを感じるようになりましたので、健康の点で学園にご迷惑をおかけする懸念もありましたので、退職をお願いしていましたが、幸いにもご承認して頂きまして、昭和2年京大卒業以来の満57年の教壇生活に終止符を打ちまして、フリーの身となりました。



京都学園大学  
事務局長  
松宮 敬

## 今、私大は……

本学の卒業生も回を重ねて4940名に達し、第1回卒業の諸君は30歳前半という、社会人として入門を過ぎ、中盤期に入り、各界でその力量を存分に発揮されていること、まことに喜びに堪えないところです。

わが国の私大も328大学、130万人に及ぶ学生を擁し、所謂高等教育という面から見ると、国・公・私立を合せて全学生数は、170万近い数に達しております。私立大学も戦後多くの紆余曲折があったとは言ものの18歳人口の増加と、大学進学率の増加が相俟って今日に至るまで拡大、充実の歩みを続けて来た。その結果、量的には昭和30年度の進学率は大学7.9%、短大2.2%であったが、58年には大学24.4%、短大10.7%

例えば、創立以来全教員、学生、全力投球で本学の向上に当たって来ました。大学は、教職員、学生諸君実と和気あいあい懸命の努力を重ねて来たのです。この3月には、第12回の卒業生の門出を見送ったのですが、何分学生数も他大学に比して、まだまだ少ないのですが、皆さんよくご存じのように既に社会に巣立られた方々の中には、官界、教育界、実業界、芸能界において素晴らしい活躍を続けておられる方々が少なくない事は、実に嬉しい限りです。他大学に比して尚、日まだ浅い本学としては、特筆大書すべき実績です。近く増学部も行われますので、卒業生数もともに増してゆき、京都の先輩大学を追いかけ追い抜き、京都亀岡に京都学園大ありとの印象を力強く植えつけることは必至であります。

尚、早くから同窓会が設立され、同窓会報も発行されていますので、横と縦との連絡が、十分にとれていますことは、誠にすばらしい事です。また大学には、昭和50年卒の松本正裕君、54年卒の川島晋一君、55年卒の小早川重信君、56年卒の金森秀樹君、同じく56年卒の沢嘉昭君の5人が職員として奉職されていますので、大学と同窓会との連絡提携が十分にとられています。

私は野にありますが、力の及ぶ限り大学のPRに努め、より多くの優秀な志願者が、集中するように及ばずながら努力を重ねる覚悟です。

卒業生の皆さん、母校愛に燃えられ、母校の益々の充実発展に陰に陽に力を与えられん事を心からお願いします。

という伸びを示し、今や大学は研究機関である反面、教育機関としての重要な使命を帯びるに至った。

しかし、18歳人口も昭和67年の205万人を最高にして漸減、75年には151万人となり、39年度と同数にまで減少する見込みとなっている。一方、私大の財政安定化に重要な役割を果たしてきた45年来の国の補助金も今日では縮減の一途を辿りつつある。

私立大学は人口減と、国の助成の減額という問題を抱え、加うるに社会的ニーズの多様化という問題に直面し、今後どのような道を歩んで行くべきか大きな課題を前に真剣に各大学で対応策が検討されている。

私立大学がこの10年間に内容的に信頼を

受け得る大学となり得るか否かは、その運命をも決定するものとなることに思いを致し私学関係者は全ての頭脳を集めて対処する事が大切である。私大の発展は単に量的拡大のみではなく、国民に有用なものと認められる質の問題であろう。

私達は4940名に及ぶ卒業生を世に送った責務を自ら強く自覚し、卒業生諸君に名誉ある大学であり、なお引き続き学ぶ者にも誇り高い大学にするには何をなすべきかは極めて重要な課題である。現在大学の運営を任されている一員として厳しい大学の将来に向かってどう対処するかは重大な責務であると考え、その道を探して心安まる日もない今日この頃ではある。

今年はテーマに「Refresh in Autumn……いい感じで逢いたいね」を掲げ、学園祭の中で各人が新しい自分を見つけるということを意図しました。先輩諸兄に負けない学園祭作りをやってきたつもりですが、果たして結果は……？とありえず、とくと御覧あれ！

龍尾祭実行委員長 野越由久



# 龍尾祭ドキュメント

今年で16回目を迎えた龍尾祭。短大ができたおかげでこんな催しまでできるようになりました。先輩うらやましいでしょ？

▼演武祭 硬派の極めつけがこれ。男が男にほれる時ってこんな時じゃないだろうか？



▼フィーリングカップル5対5 短大ができたおかげでこんな催しまでできるようになりました。先輩うらやましいでしょ？



▲仮装行列 電岡市内を闊歩していると、いつのまにか恥しい気持ちなくなっていました。

▼文連オリンピック トイレットペーパー早ムキ競走 何がうれしくてこんなことを……と、言いつつも顔は真剣そのもの。



▼学園寄席 我らが誇る落研の登場です。例年通り客席は爆笑につぐ爆笑で大いに湧きました。



▲クラブ対抗芸能合戦 この場では言えない芸もありました。ちなみにこの場面は金魚を飲みこんだ瞬間です。

▶軽音 軽音はウルサイと言う人は古い！今年にはなかなか聞かせるグループが多かったようです。



★われらが母校、京都学園大学は、時代とともに、大きく変わりつつある。その変化の動きを、ある日、久しぶりに母校を訪れた取材班のカメラと取材メモによって記録してみた。

## 学食15年

★朝ごはんを食べなくなった最近の学生たち

ウ▶われわれ昔の学生たちは、とにかくよく食べ、よく学食を利用した。

ノ▶ふとっ腹なボスの存在がいて、おごりおごられ、食べることが、大学生活の大きな要素だった。

目▶モーニングサービスの利用率が高かった。きっちり朝ごはんを食べたよ、学食で。

タ▶ところが最近の学生は、朝ごはんを食べないらしい。

カ▶それに、学食のおばさんによると、われわれの頃より、ずっと行儀がよくなったらしい。

ノ▶それも、女の子より男の子の方が優しく行儀もよく、忙しい時は手伝ってくれるそう。

目▶去年、短大が開学して、メニューも大幅増。第2学食、喫茶室もできた。"パンパロア"なんて、メニューもあるよ。



## 駐車場

★女の子受けのする車、かわいい車がふえて



チ▶駐車場の感じも変わったね。

カ▶オンボロ中古車がなくなって、新車がふえた。TVコマーシャルに出てくる流行車オンパレードだな。

目▶女の子受けのする車、かわいい車も多くなっている。これも短大開学の余波ですか。

ト▶おれたちの頃も、派手な車を乗り回していたやつもいた。誰だったかな。アメ車の Mustang。

オ▶だけど、ほかには中古車が多かった。

目▶それにしても、女の子が多くなったねえ。昔は、駐車場で遊ぶといっても、せいぜいキャッチボール程度だったけど、今ははれ、昼時間ともなると、バドミントン、テニスをKGUギャルがやっていますよ。

## KGUファッション

★短大開学のせいで急におしゃれになった学生たち

ス▶短大ができて、ファッションにも大変化が出てきているそう。

ガ▶おれたちの頃は、ドテラを着てる剛の者、チャンチャンコ姿の男もいた。

目▶ジャージ姿の学生が、キャンパスを闊歩していた。いつも同じトレーナー姿が多かった。

ヒ▶そんな学生が、いなくなってる。ちょっと淋しい気がするけど、ないでもない。

ガ▶トレーナーも、クラブ、サークルでつくった同じデザインのもの。それに、スタジアム・ジャンパーというのか、あれが目立つな。

目▶ずっとずっと、ファッション度が高くなっている。



## 喫茶サニーヒル

★15年間変わらぬマスターの情熱も浮いてきて

サ▶かつては一部の学生が入りびたっている感じだったけど、最近では、広く浅く利用されているということだ。

ラ▶第1期生が入学してから卒業するまでの4年間は、店にべったりのひとがいた。



ノ▶1日3食サニーヒルで食べて、車を貸せ、遊びに行こうと誘う学生がいたということだ。誰？

目▶学費が続かず、この店でアルバイトして卒業した学生も何人かいる。

ト▶ところが、今の学生は、オトナシク、行儀よく、なんとなく元気がないように見える。

ド▶それが、マスターには淋しいらしい。

目▶学生たちのふところ具合を見てメニューを決める学生本位の経営とマスターの情熱は変わっていないけど、それが浮いてる感じだな。

# 同窓生からの手紙

遠く離れた地に住むOBたち。母校に寄せる想いは人一倍強い。

## 「旧友と会う」 金森義生(昭和52年卒)

先般、7月10日に倉敷・尾道方面を訪れる機会があり、同期の友人に会えたらと思いい、宿屋が西山別館である都合上、その界限に住むかつての旧友を、同窓会名簿で繰って見た。

暗に覚えている一人に、応援団で活躍していた住吉真一氏。彼は体育連合委員長をつとめ、文連の方は私が、学園祭の時には互いに協力をはかった仲だった。

一般ゼミC、井上先生のクラスで同じだった亀田省治氏も馴染み深い。彼もまた学友会で活躍し、いずれも、学業を含む自主的な人物で学友会活動を共にした旧友は、とりわけ印象も濃く刻まれ、また懐かしさも一入である。

そこで宿屋の西山別館は尾道市なので、尾道に住む亀田省治氏と会う事にし、訪れる3日程前に、彼に電話をしたら、その宿屋を知っていたので、殊に都合がよかった。

何か気の利いた土産が見当たらず、昨秋、10周年の同窓会に顔を見せなかった彼に、その時の記念品を土産代わりに持参した。夕方、尾道駅に着き、タクシーでおよそ

10分程で宿屋に着き、部屋から、彼の勤める「まんぷく寿司」へ電話をつないで貰った。

現地で、彼との連絡はより鮮明に聞きとれ、夜8時頃に来てくれるとの事で、心待ちにしていた。

そして暫く、広間で宴会のさなか、よくできあがりすっかり安心の末に忘れてしまったかの時、帳場へ面会に来てくれた。

まさに7年ぶりに再会した感激に、どちらからとなく固い握手を交わしていた。

旅の恥はかき捨てという全く色気のない話であるが、喜び勇んで二人連れ、部屋に行き、えんえんと夜半まで話に湧き、旧交を温めた。

話によると、まんぷく寿司は数店のチェーン店であり、彼はその一店の責任者か、又はチェーン店全体の経営者であったかの様で、いずれにせよ単なる平社員でなかったようである。それは、需要に訴える経営の方法を、その店の持ち分を活かす強みとした「魅力」というものを盛んに、自信に満ちて話してくれた。経営者たる采配のそ

の気苦労にうなずき、互いの健闘を祈り、惜しむ夜だった。

土産がわりにした記念品の荷物が減り、楽になると思ったのに、彼も何かと気遣ってくれ、その一つに、彼の経営する「まんぷく寿司」の寿司があり、彼の去った後、先程の話を思い浮かべながら、早速、よく噛みしめて相伴した。さぞ旨かったか、全部たいたらげた。

あくる日、千光寺・文学の道を訪れる為、乗合バスの中で、彼の経営する「まんぷく寿司」の停留案内のコマーシャルが流れ

文学の郷土色溢れる、俳句を読みあげた「まんぷく寿司」の宣伝に驚き、思わず、彼の益々の繁栄を祈った次第だった。昨夕、彼の土産のひとつに、その俳句をよんだ箸紙を靴に入れ持ち帰ったはずだが、なんぼ捜しても見つからず、残念でならない。

それにしても、全国にまたがる同窓生が、おいおい増え続け、年月と地の隔たりがあればある程に、一入懐慕にひたり、真の旧交を温める事のできた、この夏のよい思い出となった。

## 「A Letter from L.A.」 森本政司(昭和48年卒)

熱狂のロス・オリンピックの騒がしさも去ってもう2カ月、こちらでは、フットボールのシーズンに入り朝晩、肌寒い日が始まりつつあります。

京都の地には、その後の浅野氏の公私にわたる活躍の出、聞きおよんでいます。今年3月6年振りの帰国の際には是非にと思いましたが残念ながら浅野氏、出張中との事、対面の機会はありませんでしたが、が、しかし、京都では米田先生宅へ女房、子供、共々伺い、穴見氏にも拙宅へ出向いてもらい家族共々昔話に花が咲きました。東京では意外にも那須氏と出会い、飲屋街を徘徊し、テツマンを打ち、福岡の豊福

家へも沖縄へ行く途中2日程居候を決めこみ歓待してもらってきました。6年又は8年振りにもかかわらず昨日別れたばかりのような気がして、特別な話題もなく、それでいて楽しい時を過ごす事が出来ました。豊福氏は3人の子持ち、私にもこの12月2人目ができます。いよいよアメリカに居つきそうです。何やかやと忙しくしているうちにもう8年……という感じです。そうそう、私事です、仕事先が変わりましたので知らせておきます。

"CITY OF LOS ANGELES"  
"HARBOR DEPARTMENT MARKET DIV"  
JAPANESE TRADE LIAISON REP.

として今年の5月より採用されています。

ロスアンジェルス市の職員としての採用ですし、市港湾局のスタッフとして採用された事を大変な幸福であると感じています。今後は学園大の同窓が一人でも多くこの地アメリカで活躍される事を願っています。

同窓会報、毎年発行されるとか、外地に居住している私にとって唯一の同窓との交流の場となりそうです、楽しみにしています。

同窓の連中に会うことが多々ある事と思えます。どうぞヨロシク伝えて下さい。

それでは又  
MASASHI MORIMOTO  
10. 23. 1984

## 卒業生ドキュメント

# 現代の京都で古美術商として

三島敏明さん(昭和49年卒)

父のあとを継いで古美術商として生きる決意を固めたとき、「裏千家御家元が教授として教鞭をとっておられる京都学園大学に学びたいと思った。」という三島さん。母校で学んだこと、御家元との出会い、茶道部でのクラブ活動は、現在の彼の仕事の大きなバックボーンとなっている。

● 三島敏明さん(34)は、京都の寺町通二条で、家業の古美術商を継いで、(株)三嶋の経営にあたっている。

「茶道具を中心とする古美術全般の売買をしています。最近では、新しい美術品もあつちがっています。古美術品は、その流通のサイクルが停滞してきており、業界全体が、今、きびしい状況にあるといえます。」

大学卒業後、父親のもとで働くようになったとき、2人いた番頭さんが相次いで独立した。下働きいっさいが三島さんにかかってきた。それから、もう10年になる。

「この商売、人数をそろえろとできるというものではない。それぞれの見る眼、経験がものを言います。右腕になってくれる人材がそだたないことには、仕事全部が自分にかかってくるのです。」

現在、三島さんのもとで3年の経験をつんだひとが、その右腕になりつつある。しかし、まだまだ三島さんは忙しい。月のうち半分は市(オークション)に出ることとでさかされてしまう。月平均1回は、百貨店の催物がある。それに仕入れ業務と店での商売。店の方はまだお父さんに見てもらえるが、現実に休む間もない。そのため、日曜日にある裏千家のお茶の稽古も休みがちだ。小学校2年生を頭に3人いる男の子ともろくろく遊んでやれない。

「もともと日曜日のない生活です。市は日

曜祭日に関係なく開かれます。京都、大阪の市へは、それぞれ月平均3回程度、年に数回は、名古屋、東京、金沢の市へも出かけます。」

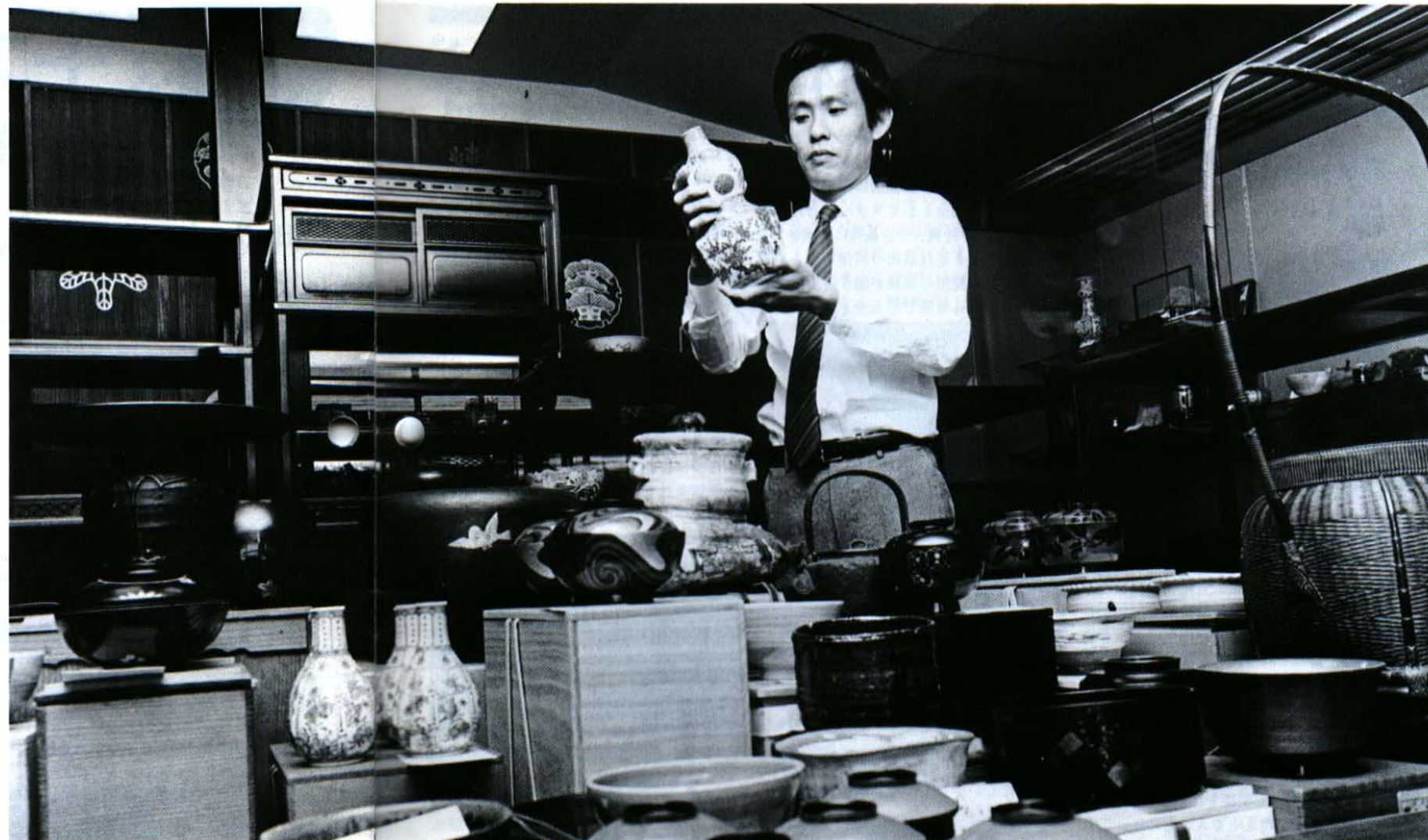
● 高校を卒業する直前まで、家を継ぐことをあまり真剣に考えていなかった。だが、独りっ子ということもあって、父の仕事を継ごうと思った。そしてそのとき京都学園大学への進学を決めた。

「裏千家の御家元が教えておられる大学というのが魅力でした。入学後は、もちろん茶道部に入ってクラブ活動、御家元の講義には必ず出席しました。」

● 今も茶道部との関係はつづいている。京都学園大学の茶道部は、年2回、京都で茶会を催す。その道具全般を三島さんが見ている。「私の大学生活は、ある意味でお茶がすべて。御家元との出会いが、ここまでの私をつくってくれたと言っても過言ではありません。」

● 卒業後、この仕事についたとき、御家元が、これは私の教え子だと言って、事あるごとに、いろいろなひとに紹介してください。それが今も忘れられないという。もちろん現在でも御家元との師弟の交渉はつづいている。

「そんなことから、私にとって母校はかけがえのない存在です。ほかのどんな大学からも得られないものを私に与えてくれました。」



● ところで、古美術には、いつも真贋という問題がつきまとう。ここ数年来、美術評論家や学者の鑑定が古美術の価値や価格を大きく左右するようになってきている。しかし三島さんは、古美術は自分の眼で見るものであり、お客さんがよいと思って買う品はいいものだと言う。

「自分の眼でいいと思うものを自信をもっておすすめします。もちろん、次の世代(子孫の代)に商品がゆずられてもその商品には責任をもちます。しかし古美術の価値は、それを見るひとと買うひとと愛好するひとの眼



が決めるものではないでしょうか。」

● と言っても、やはり古美術は鑑定がものを言う世界である。新しい美術工芸品も評価の定まった作家の作品にはその名前が値段がつけられる。しかしそうした体質をそろそろ変えていかなければならないところに来ている。「これからは、絵画の世界の画商のような役割が美術商にも求められてくると思っています。新しい作家を発掘してそだてていくこと。事実、百貨店筋などからは、そういう要望も出てきています。」

● だから、地方の市などに出かけたときは、かならず工芸組合などの展示場を見て回ることにしている。そこで、無名の若い作家や腕の立つ職人を発見することもある。しかし、もともと伝統的な世界だけに、若い作家や職人と直接取り引きができないような場合が多い。

「この商売、100パーセント機械化できない人間の眼だけが勝負の世界。それだけに

人間関係が大切です。その人間関係を大切にしながら、いかにして新機軸を見出していかうかが今後の課題です。」

● 相場師的な要素をもつこの仕事。それだけに不安定で、古美術品だけでなく、新しい美術品の売買取をベースとして経営の安定をはかっていかなければならない。三島さんが若い作家の発掘に力を入れるのも、腕の立つ職人の手によるコピー(写し)を装飾品として扱うようになったのもそのためだ。そう言えば、三島さんの名刺には、「新古美術商・三嶋」と書かれている。

● この道に入って十数年、つくづく、お茶の世界はすばらしいと思う。

「たとえば、冬の茶会の夜話し。5人前後で、茶室に蠟燭を点して、静かに語り合う茶会ですが、一度経験したら、そのすばらしさは、こたえられない。最高です。」

● きびしい投機的な商売の世界に生きる三

島さんをささえているのは、このお茶のすばらしさとの出会いの体験なのだろう。それが古美術の世界で、イキのいい商品を探して、どこまでも三島さんを歩かせていく原点となっている。



三島敏明(34)さん  
 (株)三嶋代表取締役  
 京都学園大学経済学部  
 経営学科・昭和49年卒

● 趣味はスポーツ全般で、何でもこなすが、最近では仕事の関係から、どうしても接待のゴルフとなることが多い。インタビューの最後に、同窓生のひとへの一言を求めると、「みんな30過ぎて、今が働きざかり。ストレスの多いときだから、とにかく健康に気をつけてほしい。」という答えが返ってきた。同窓会報Cheer編集部も、エールを交換。三島さんの今後の活躍を祈ります。



なつかしの追跡レポート

お世話にな  
ったあの人  
は……



この方の写真を見て、「アッ、喫茶の！」と思う人がかなり多いはず。そう、喫茶室で熱いコーヒーと一緒に、私たちが何かとお世話になった岩本修子さんにご登場頂きました。

まず岩本さんのプロフィールから……。昭和48年4月、京都市から亀岡の現住所へ引越。この時から下宿を始める。同年9月、母校食堂の喫茶室に勤務。55年喫茶室を退職。56年自宅で岩本商店を開店……現在に至る。

今では母校が一番近いところで下宿の大家さんとして、また、パン、菓子、食料品からクリーニング、カラープリント、宅急便の取次ぎまで何でもOKの岩本商店のオバサン(失礼!でも親愛をこめてオバサンと呼ばせて頂きます)として大忙しの毎日です。

今まで52年、56年と2回の卒業生を送り出し、来春3回目の卒業生を送り出そうとされています。その間、下宿生の病気、事故があったり、下宿生の風疹がうつり岩本さんが寝込んでしまったり、また反面、誕生日に下宿生から花束を贈られたり……色々なことがあったけれど、その中でも特に1回目の卒業生——若林君、丸山君、岡崎君、金指君、西君、田中君、渡辺君——ちょっと遠くを見上げるようにしながら名前を挙げてもらった、この人たちが特に思い出深いとか……。

「今でも年賀状を送って来てくれるんですよ」とうれしそうに話される岩本さん、横からご主人が「こいつは人が良すぎるからなあ……」と言っておられたとおり、みんな自分の息子たちと思っての毎日がご自身の張り合いであり、この人の人気の源と思われる。

ここ10年間、言わば母校の「カブリツキ」で昼も夜も学生と接してこられた岩本さん、これからはずっと「カブリツキ」で母校を見守っていかれることでしょう。

亀岡通信

京都国体

開催を4年後に控えた今、府を挙げて準備が進められている京都国体。昭和22年に京都を第1回大会としてスタートした国体が、昭和62年の沖縄大会を最後に全国を1巡することから2巡目最初の国体となる。そこでかなりの発想の転換が図られ、国体そのものを根本から見直した大会となる。

京都国体シンボルマーク



趣旨

スポーツの持つ力強さ、スピード感、躍動性を、テーマカラー「色彩ING」の矢印で表すと共に、京都の、そして2巡目国体の「新しい歴史に向かって」伸びゆく姿を象徴しています。

そんな中で母校をも含めた亀岡市としてももうすでに様々な分野で、啓発運動、準備が進められている。

そこで亀岡市の国体準備室を訪れ、啓発運動に忙しい中を栗山明室長にお話を伺った。

府レベルでは63年の「国体」、69年の「遷都1200年祭」、75年の「21世紀突入」と続くステップの中のひとつとしてとらえている。国体自体は得点の見直し、一般府民が参加できる2部制、デモンストレーション競技の新設などが検討されている。競技会場も現行の中央集中ではなく、府下全域で会場を分散させて様々な競技が行われることか

京都国体マスコット



趣旨

全国の皆さんに親しまれ、かわいがられてきた「牛若丸」をモチーフとし、その京都らしさ、親しみやすさ、そして未来に翔る姿は、京都国体に込められた願いを表現しています。

ら、まさに府を挙げてのものとなる。亀岡は「バスケットボール」と「ラグビー」の会場として内定しており、母校に近い亀岡運動公園内にスタンド数1200人の市民体育館、6000人のグラウンドの建設が予定され、さらに母校とも関わり深い山陰線複線電化、9号線バイパス、372号線バイパスの工事が国体に合わせて急ピッチで進められている。

また国体の啓発運動もすでに盛んに進められており、11月11日に「はばたく亀岡のスポーツ推進大会」と銘うって、綱引きとジョギングの大会が行われ、小雨の中にもかかわらず1600人の市民が集まり、人数的にも府下一番の盛り上がりを見せている。市としても国体というイベントを通じ、単にスポーツの祭典だけに終らすことなく、文化活動、街づくり運動にまで視野を広げようとする意図がうかがえる。

母校においても田杉学長を初め各関係者も準備委員として参加しており、60年の鳥取、61年山梨、62年沖縄に続く京都国体、各方面から大きな期待が寄せられている。

トピックス

昭和58年11月、「京都国体」スローガンに「新しい歴史に向かって走ろう」が採用されました。ご存知の方も多いと思われますが、実はこのスローガン、京都文化短大の松田雅子さんの作なのです。国体なんて興味ない、と思われている会員のみならず、意外なところで国体に関わりをもっているものなんですゾ!

伝言版

- Year!ウィークリーコンサート部の先輩・後輩・同期のみんな元気か!一度みんな集まって、セッションをしたいですね……。 Y. OGORŌ
- 硬式テニス部の皆さん、お元気ですか? 克子先輩・大沢先輩今はどうなさっていますか? 私は6月に女の子が産まれました。 大室仁子
- 7期生川畑ゼミ 近日中コンパあり。追って連絡します。 川島



往復書簡

昭和55年経営学科卒・森本祥司さんからゼミ担当教官・田畑要助教授への手紙拝啓

先生、いかがお過ごしでしょうか。私も大学を卒業して4年になろうとしています。卒業と同時にN社に入社し、営業という職種で働いています。営業では学生時代に経験できなかった多くの人々との出会い、人間関係という点で、数多くの勉強をさせてもらいました。また、いろいろとつらいことや、やめたいと思ったこともありましたが、石の上にも3年という言葉があるように頑張ってきたつもりです。そして4年がこうなっています。

しかし今思うことは、今の自分のままで良いのだろうかということです。ルートセールスのためか、数字に追われる単調な日々が続き、自分なりに営業サイドから企画開発へ提案したり、他にも通信教育でマーケティング・企画・情報などの勉強をしましたが、今の会社ではそれを活かすことができません。

以前、先生にもお話ししたことがありますが、やはり企画の仕事一度経験したいと考えております。自分自身どのような職種に向いているか、はっきり言えてわかりませんが自分の可能性というものが、どこまで伸ばせるか挑戦したい気持ちです。

4年間N社で働かせてもらいましたが、退職をして新しい仕事をさがしたいと思っております。しかしN社で働いた経験は今後の私の人生においても必ず役立ってくれると確信しております。そして新しい仕事

についても全力で当たるつもりです。先生にはいつも御迷惑をかけておりますが、これからもいろいろな壁にぶつかるかと思えます。先生に御指導をお願いする機会も増えると思いますが、今後ともよろしくお願いいたします。 敬具

田畑要助教授からの返信

お手紙を拝見、お元気な様子何よりです。卒業以来N社での貴君の活躍ぶり上司のO氏より聞いて喜んでいました。

営業の仕事はどの会社においても中核的な仕事ですから、精神的にも肉体的にも大変だろうと思います。ましてやN社のように製造を中心にして育ってきた会社における営業の仕事は一層大変な職場だと思います。この様な会社では、トップの意見の調整、中間管理職に良き人材が育っていないと、その下で働く営業マンの気苦労は大変だと思います。

此の度の貴君の手紙の中で、今のN社をやめ、他の分野で自分の力を試してみたいとの事ですが、その気持ちもわかりますが、アメリカやヨーロッパでは、自分自身で新しい分野に挑戦し、より自分に合った仕事を求めて、自己の力をのばすための転職はよくみられますが、日本の社会構造、一般の職業感の中では、外国なみの考え方は通用しない面があり、転職は本人にとって不利な場合が多いようです。

その様な意味でも貴君の今迄の仕事ぶり、又業績からみて、今の会社をやめる事は悪い様には思われませんが、貴君の気持ちもわからぬではありません。

直属の上司に恵まれ営業に対する自分の考えや企画が採用され、成果をあげうる事は、営業マンにとって、この上ない喜びとなり、生きがいを感じるものですが、逆に

会社は売上の上昇のみを営業マンに期待し、上司もその事だけに気をとられ部下の新しい企画やアイデアに少しの失敗も認めないその対応では、営業マンは仕事に本気で取り組む気力を失い、仕事にも生活にもその情熱をなくする事になります。

貴君の今の心情や考えを正確には把握できるとは思いませんが、営業面での仕事で数年上位の成績をあげてきた人にありがちな悩みだと思います。

一度選んだ会社をやめる事は本質的には賛成しかねますが、貴君の将来に対する生活設計、又自己の能力を他の分野でものばしてみたいとの考え方を全面的に否定するものではありません。その意味で今までの営業での能力と経験をフルに活用し、まとめあげてゆく上で、販売計画や、販売促進の分野で力を試していられるのもよいかと思います。

貴君も大学において小生と共に経営分析の研究を続けてきた者として、その能力を発揮できる仕事でもあるかと思えます。

幸いにして小生の古くからの友人でM社の常務をしているG氏がいますが、貴君の話をした所、扱い商品は異なるがその様な営業に能力を発揮してきた人に是非新しくできる当社の販売促進部に来てもらいたいとの話もあり一度会ってみたらよいと思います。

しかしN社にも長くお世話になっている事でもあり上司ともよく相談され、お許しとご理解を得る事が先決だと思います。

男子の仕事としてはまず自分の仕事に情熱をかけられるものである事が第一と考えます。よく考えて行動される事です。

その上では又ご相談に応じます。今後の貴君の健闘を期待しています。

健康にはくれぐれも気をつけて下さい。



投稿お待ちしております!

# 昭和59年同窓会理事会報告

今年、同窓会理事会は偶数月第1日曜日に計6回開かれました。そこでは将来の同窓会の方向性を探る建設的な話し合いが行われました。この同窓会報「Cheer」もそのひとつの具体的なあらわれとして生まれたものです。同窓会員のみなさまに、我々理事の活動を少しでも知っていただくため、今年度理事会の議件をまとめました。

第1回 2月5日(日)

〈議件〉

- ①同窓会報について
- ②昭和59年度卒業生(第12期生)に対する事業について
- ③第12期生同窓会理事選定について



第2回 4月8日(日)

〈議件〉

- ①同窓会報について
- 第3回 6月3日(日)
- 〈議件〉
- ①プレ創刊号について
- ②第12期生に対する事業について
- ③第12期生同窓会理事選定について
- ④昭和59年度収支予算書と決算書について
- ⑤大学設立15周年記念事業について

第4回 8月5日(日)

〈議件〉

- ①プレ創刊号についての報告
- ②創刊号についての報告
- ③第12期生に対する事業報告
- ④昭和59年度収支予算書と決算書について
- ⑤同窓会長期構想委員会設置について

第5回 10月7日(日)

〈議件〉

- ①川畑ゼミOB会
- ②同窓会報について
- ③新任理事紹介 第7期生 川本直哉君
- ④同窓会長期構想委員会について

1984年総会 11月3日(祝)

〈議件〉

- ①決算報告
- ②補正予算報告



- ③予算報告
- ④事業報告
- ⑤昭和60年度事業予定
- ⑥同窓会報作成報告

## 京都学園大学同窓会 昭和58年度決算書

収入の部		(単位:円)
科目	決算額	
前年度繰越金	2,702,922	
会費	925,000	
雑収入	7,608,685	
積立金より移算	10,000,000	
収入の部合計	21,236,607	

支出の部		
科目	決算額	
事業費	18,921,518	
通信費	1,869,802	
印刷製本費	369,945	
広報費	2,121,250	
10周年記念費	14,560,521	
助成費	892,400	
各種団体助成費	692,400	
支部助成費	200,000	
会議費	470,369	
会議費	311,399	
旅費交通費	158,970	
事務費	543,418	
人件費	309,300	
消耗品費	234,118	
翌年度繰越金	408,902	
支出の部合計	21,236,607	

# MEMO 体育会系クラブ戦績メモ

剣道部

今年、創部15周年の記念すべき年に、剣道部創設以来の悲願であった「全日本大会出場」という輝かしい歴史の1ページを、加藤主将、森岡副主将を軸に部員一丸となって書き加えることができました。偏に、剣道部を創設されてから今まで、その魂を私たち部員一同に伝えて頂いた賜物だと感謝して止みません。又、全日本出場の際には多額のご援助金、並びに熱きご声援を頂き誠にありがとうございました。おかげさまで念願の初戦を突破し、部員一同大きな自信となりました。しかし、この結果に満足せず、より一層精進し、諸先輩方のご期待に応えられるよう頑張っていく所存でございますので、諸先輩方におかれましてはこれから益々ご清栄されることを部員一同心よりお祈りしています。

昭和59年度 主な戦績  
 第27回西日本学生剣道大会 ベスト16  
 第26回京都都学生剣道大会 団体3位  
 個人(3段以上の部)3位  
 加藤久仁幸(4回生)  
 個人(2段以下の部)3位  
 安田昌宏(1回生)

第32回関西学生剣道優勝大会 ベスト12  
 全日本大会出場権獲得  
 第32回全日本学生剣道優勝大会2回戦進出  
 第8回京都11大学親善剣道大会 準優勝  
 空手道部

古田、益見両先輩、京都学園大学空手道部の部員として、4年間鍛錬に励んでこれたことは我々の尊敬に値するものです。これからも空手道でやしたたか忍耐力と精神力を実社会においてもお役立てください。そして未熟な我々をご指導いただき、誠にありがとうございました。これからも先輩たちの指導を生かし、空手道部をより発展させてゆくことをお約束いたします。

昭和59年度 主な戦績  
 4月 陰陽流拳法空手術道大会 団体戦 準優勝  
 個人戦 3位  
 古田  
 5月 関西学生空手道選手権大会 2回戦 敗退

7月 全京都国体予選大会 2回戦 敗退  
 バドミントン部  
 諸先輩方へ  
 我々、バドミントン部は現在12名と少数

ではありますが、中学・高校と経験のあるものを主将とし、練習内容にも変化をいれ、日夜練習に励んでいます。  
 今年度は、京都リーグ3部2位、又、関西リーグは6部Bグループ4位となりました。この成績にはおおいに反省する点があり、主将を中心に再度闘志を確認しました。  
 又、時には坂田先輩などわざわざ足を運んでくださり、練習に気合いを入れてもらっています。

又、皆様、時間等余裕がございましたら、懐かしきクラブをご指導くださいますようお願い申し上げます。まだまだ勝てませんが、来期こそは今よりもよい結果をあげるよう頑張ります。

敬具  
 昭和59年度 主な戦績  
 京都リーグ 3部  
 ○京都学園大学5-0 京都府立大学×  
 ○ 4-1 京都薬科大学×  
 × 2-3 滋賀教育大学○  
 春季関西リーグ 6部Bブロック  
 ○京都学園大学4-3 大阪芸術大学×  
 ○ 6-1 兵庫教育大学×  
 × 0-7 奈良教育大学○  
 × 1-6 大阪工業大学○  
 秋季関西リーグ 6部Bブロック  
 ○京都学園大学6-1 大阪芸術大学×  
 × 1-4 兵庫教育大学○  
 × 3-4 奈良教育大学○  
 × 2-5 大阪工業大学○

硬式テニス部

私たち硬式テニス部は、山田勝裕(現講師)を顧問とし、リーグ昇格及び本戦出場を目指し部員一同協力しています。  
 O Bの方々とは年1回のOB戦、新歓コンパ、追い出しコンパでしか会う機会がありませんが、それだけでなく練習に直々来ていただくことによって一層、発展していくことと思います。

昭和59年度 主な戦績  
 リーグ戦 7部ベスト8  
 ○京都学園大学9-0 大阪音楽大学×  
 ○ 5-4 大阪薬科大学×  
 × 1-8 桃山学院大学○

私たちが硬式テニス部は、山田勝裕(現講師)を顧問とし、リーグ昇格及び本戦出場を目指し部員一同協力しています。  
 O Bの方々とは年1回のOB戦、新歓コンパ、追い出しコンパでしか会う機会がありませんが、それだけでなく練習に直々来ていただくことによって一層、発展していくことと思います。  
 昭和59年度 主な戦績  
 リーグ戦 7部ベスト8  
 ○京都学園大学9-0 大阪音楽大学×  
 ○ 5-4 大阪薬科大学×  
 × 1-8 桃山学院大学○

在学中は色々ご指導いただき、ありがとうございました。時には優しく、時には厳しく私たちにリードしていただいたことは良い思い出となっております。  
 その先輩方が、この学園大を卒業されたことは、少し悲しい気持ちでもあります。私たちは、先輩方の教えをもとに、この学園大をさらに立派にしていきたいと思っております。どうか京都学園大学の卒業生であることにほこりを持って頑張ってください。

写真部一同  
 昭和59年度 主な活動  
 4月 春合宿(神戸)部活の年間構想と各自目標をたてる  
 学内展(新歓をかねたイベント)  
 撮影会  
 5月 二人展(桐山、稲垣、京都河原町象西廊にて)  
 6月 関西学生写真連盟合同展(大阪ミノンフォトスペースにて)  
 7月 夏合宿(白浜)部員の親睦と技術向上を図る  
 10月 体連撮影  
 11月 龍尾祭参加、学内展  
 12月 学外展(京都河原町西廊にて%)  
 関西学生写真連盟合同例会(大阪電通大にて)

我が部では今年、関西学生写真連盟に加盟した事は大きな収穫であった。初めての合同展においても、我が部から5作展示され、プロ写真家の批評も得た。また、今年より、卒業アルバム制作に協力している。

次回もクラブ紹介をいたします。お楽しみに。  
 ▶同窓会設立10周年記念式典のあと、誰からともなく同窓会報がほしいという声が出た。それがこの Cheer 誕生の出発点となった。  
 ▶こんな同窓会報がほしいと、同窓会理事会などの会合で、あれこれ話し合い、いろいろイメージしてみるものの、具体的にどうすればよいか、シロウト集団だけに、よくわからない。そこで、大学入学案内パンフレットなどの制作でお世話になったことのあるリクルートの協力を求めることにした。それが決定してからは、事はいちおう順調に運んでいったように思う。  
 ▶そしてプレ創刊号を発行。そのあと創刊第1号の編集に取りかかった。  
 ▶誌名を Cheer と決定したのは、夏の祭り。表紙にもあるように、「応援」「声援」「激励」という意味から、同窓会員の連帯とコミュニケーションを強化、同窓会員一人ひとりの活躍をバックアップ・声援していくコミュニケーションツール誌にそぐっていいこうという意図をこめてつけられた。  
 ▶ふり返って見ると、それぞれ仕事をもちながらの編集作業で、よく発行までこぎつけることができたなあという感慨がある。だが、何だかんだ言っても、やっぱり私たちの母校は京都学園大学だということだ。試行錯誤の編集作業のなかで、あらためて母校愛を確認できたように思う。  
 ▶お世話になった大学当局、恩師の先生方、また、こころよく取材に協力して下さった同窓会員のみなさん、後輩の在校生諸君に厚く御礼申し上げます。  
 ▶この Cheer が、同窓会員相互のコミュニケーションツール誌として今後大きくそだっていくかどうかは、会員のみなさん次第と言っても過言ではない。1年後に向かって Cheer はもう動き出しています。投稿・寄稿、積極的な編集参加を呼びかけます。

# KARTE 文化系クラブ活動カルテ

写真部  
 厳しい社会の荒波へ「京都学園大学」という港から船を出される卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

編集後記  
Cheer UP



カネボウ薬品(株)  
大阪支店薬専第三課係長  
**石塚義明さん**  
(京都学園大学経済学部経営学科・昭和四八年卒)

# 「ビジネスマン」として生きる。

カネボウ、といえば、誰もが繊維や化粧品を思い浮かべる。石塚義明さんには、それが悔しくてならない。と言うのも、石塚さんは、カネボウ薬品(株)で医薬品の販売に携わっているからだ。

「それも漢方などの家庭用薬品を中心に扱っていて、私の仕事は百貨店のドラッグ、薬局薬店を対象とした販売促進活動ということになります。」

京都学園大学を卒業して、もう一〇年以上になる。現在、薬専第三課係長として、チームの先頭に立って活躍している。人間三〇を越えると、それなりのポジ

ションが与えられ、仕事のテリトリー・範囲と目標が明確になってくる。そのなかでの自己追求とたたかいが始まる。石塚さんの場合、ここ当面の目標は、この仕事をつうじて、カネボウ薬品を、繊維・化粧品・食品・不動産とあるカネボウの他部門とならぶ業績にもっていくことだ。

「利益率はいいのだけど、売上高はまだまだ他部門に劣っている。なんとか他部門とならぶ業績にもっていったって、カネボウの業態を正五角形とすることですね。」  
毎日が多忙である。夜も遅い。そのた

め日曜日にも疲れを癒すことに終始することになる。二人いるお子さんともろくに遊んでやれない。それをちよつとろうしめたく思うが、仕事は今、もつとも充実している。

時々、京都学園大学の同期生と会うことがある。みんな今、社会の中堅として油の乗りきった仕事ざかりだ。それだけに話題もそれぞれの仕事中心となる。先日、在学当時柔道部のキャプテンで銭高組に勤めている同期生から電話があつて、柔道部顧問の先生と三人で夜を徹して飲んだ。そんな時、おたがいの現在の生き方を確かめ合いながら、目に見えない同窓生の連帯を意識する。同期生はほとんどがもう結婚して、それこそ身を固めて仕事にうち込む時期にさしかかっている。それが、ひしひしと実感される。

亀岡で下宿して、亀岡のひとと結婚した。石塚さんにとって、亀岡と京都学園大学は、その人生を決定する大きな要因となった。

今日も石塚さんは、仕事で忙しく歩いている。仕事の合間に、ふと同期生のことを思う。そして、いろいろな顔を思い浮かべながら、「がんばれよ」と呟く。今、同期生は、みんなそれぞれ中堅として、もつとも苦しくまた充実した人生の正念場にさしかかっている。



## 京都学園大学同窓会

〒621 京都府亀岡市曾我部町南条 ☎亀岡(07712)2-2001(代)